



文化協会のこれから

芸能部門  
藤原勝

私の所属する高島音頭保存会は、古くから伝わっている盆踊りを継承、保存を目的として活動をしております。

文化協会の協力や支援は必要ですが、ただ本年度からの部門制についてはどうかとゆうと、上手く機能していないのでは無いかと思います。芸能部門でも横のつながりを感じられないし、各クラブがどこでどんな活動をしているかもわからない状態です。今後もう少し連絡を取り合って、協力し合える所は協力してやっていけないかと思います。

それから若い世代にも文化協会に入会してくれる様に働きかけが出来ないか。例えは もやいこ、さやってこら子とかに声を掛けね も良いのでは無いかと思う。実際私達の やつている音頭もじんぐん高齢化し後継者 も出来ない状態です。それは若者たちとの 交流の場が無いのも一つの原因かもしません。

制の道作りを考え音楽部門が春、夏、秋と3回事業を起こしましたが日々反省面もありました。今年は心機一転準備期間を充分設けて一回でもいい大きな舞台と名クラブが参加した充実プログラムで望みたいと思つております。

普楽部門では22年度に事業を3回超こ  
しもしたが残念ながら他部門からは余り  
協力が得られませんでした。  
部門制の事業といえども高島市文化協  
会のバックアップが重要です。是非この  
点を26年度は生かしてほしいものですね。  
「新年あけまして おめでとうございます」  
昨年中は名クラブさまには大変お世話  
になりました。文化協会の部門制なりあ  
つと言つ間の一年間でした。昨年は部門

部門制は素晴らしい構想のもので生まれたものと思います。但し各部門のリーダーが部門制を理解し企画、立案をして業を起こさなければ意味がありません。部門制のなかでも舞台発表と展示部門とを区別して大きなグループ制が必要です。お互いの連帯感と協力がいるからです。文化協会の三役と各副部門長以上の綿密な事業計画を協議し3部門長が共同で協力し事業を実行するようにすれば事業に慣れるようになります。

音楽部門  
小野研二

部門制について・・・

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうござります。  
皆さまには輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます  
とともに、今年も皆さまにとって良き年となりますようお祈り申し上げます。

美術部門 渡 桂吉

本年度当協会の役目をおあせつかつて間もなく一年を迎えます。就任と同時に新たな組織体制で出発し、今日まで試行錯誤の用日であつたと思つてあります。事務局体制の一本化を始め部門制の設置等大きな改革は、今暫く制度がスマーズに機動し、会員皆様にご理解していただきの間に時間要すると思われます。時代の変化の中で時によつて改革も必要であります。が、効率化と言う名が先行していりますが、改革と同時に行政の中で社会教育課の果さなければならない生涯学習のあり方、公民館の役割は?そして文化協会との連携等幾多の問題を未整理のままの船出であつたと思つてあります。

就任当時から私なりに文化協会は大きな「生きがい」公園であると思つてあります。「人生八十年」の時代になり人はそれぞれ「生き甲斐」を追い求めると言われています。文化活動を通じて生き甲斐作りを行政と文化協会が、今後一段と協力体制を確立する事が急務だと思います。

## 部門の事業展開への 一考察

## これから文化協会のあり方について

昨年は新たな組織の下、文化協会の更なる充実発展にそれぞれの場でご尽力とご支援を賜わり、  
から厚くお礼申し上げます。  
なお本年も変わりませず、何卒  
よしくお願ひ申し上げます。